

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 3 月 20 日

| | |
|--------|-------------------|
| 所属部局・職 | 京都大学霊長類研究所・技術専門職員 |
| 氏名 | 森本真弓 |

| |
|--|
| 1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域) |
| 日本 (熊本県) |
| 2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験) |
| チンパンジーの飼育研修ならびに施設見学 |
| 3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで) |
| 平成 26 年 3 月 5 日 ~ 平成 26 年 3 月 7 日 (3 日間) |
| 4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏) |
| 熊本サクチュアリ、鶴殿俊史 (獣医師) 野上悦子 (技術職員) |
| 5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由) |
| 写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。 |
| 今回の渡航では、チンパンジーの飼育方法の実習、観察ならびに施設の見学を行い、先に同じ施設を訪れた同僚から聞いていた話を、実際に自分の目で見て、体感出来る機会を得た。以前に (10 年ほど前) 同施設を訪れた時に見せていただいた飼育方法と比較すると、明らかに、給餌方法、飼育施設など、さまざまな部分で、チンパンジーが、より自然 (野生) に近い生活が出来るように考えられ、工夫がなされている様子が見受けられた。さらに、長い時間、密に接することにより、強い信頼関係を作ることが、なにか作業が必要となった際、ヒトとチンパンジーお互いの負担を減らし、より安全に作業する上で、非常に重要であると再認識をした。この経験は、チンパンジー飼育のみならず、私がふだん担当しているマカク類に対する飼育方法を工夫しようとする際に、具体的な方針を考える上で、重要となるだろう。 |
|  |
| 餌を隠すことで、より工夫して給餌している様子 |
|  |
| 無麻酔で心電図・体温を計測している様子 |
| 6. その他 (特記事項など) |